

グルバハール・ジェリロヴァの中国・民衆法廷への陳述書

グルバハール・ジェリロヴァと申します。1964年、カザフスタンのアルマティに生まれました。業界の仕事に20年近く携わり、中国の製造者から衣類を購入しカザフスタンに輸出していました。2017年5月、取引先の娘から電話が入り、中国本土から製品が届いたが保管費がとても高いので、カザフスタンへの配送を手配するためにすぐにウルムチに行く必要があると言われました。5月21日の夜にバスでアルマティからウルムチに入り、ホテルに宿泊しました。翌朝、ホテルの部屋で3人の警官に逮捕されました。警察署に連行され、丸一日、尋問され、ウルムチの第3刑務所に夜の11時半ごろに連れて行かれました。

私のカザフスタンのパスポートは取られ、代わりに私の写真の入った中国の公式IDカードのようなものを渡されました。私は新疆のウイグル人だと書かれており新しいID番号を暗記するようにプレッシャーをかけられました。

私が1万7千元（2000ポンド＝約27万円）を中国からトルコのナー（Nur）と言及される機関に送金したと、警官に責められました。そのような機関は聞いたことがなく、中国からトルコに送金したこともないと警官に言いましたが、警官は私が嘘をついていると主張し、何時間もの尋問の末、自白を責められました。そのようなことには全く関わったことがないので、嫌疑を認めることを拒否しました。「殺害されても構いません。好きなようにしてください。私は単なる業者です」と言いました。最後に「このことについて考えさせよう」と言って、黄色の制服に着替えさせられ、手錠をかけられ、黒頭巾を頭に被せられて、ウルムチの第3刑務所に連れて行かれました。私が入所する1週間前に女子収容所に変えられていました。そこに3ヶ月収監された後、ウルムチの第二留置所に移動させられ、女子刑務所に送られて、2018年9月に釈放されました。

三つの収容所は過密で汚い状況でした。監房には14歳から80歳までの女性がいました。14メートル平方の監房に30名が収容されており、場所がないので、每晚順番に横たわって寝ました。十数名の女性は立ち、残りが横になって寝ることを順に行いました。食べ物は人間が食べるものではなく、パンは石のように固く、水と片栗粉のスープでした。生存できる量ではありません。1日に3回、わずかな食事が与えられました。朝食は小さな蒸しパンと水っぽい片栗粉のスープ、昼食は小さな蒸しパンと水っぽいキャベツのスープ、夕食は小さな蒸しパンと水っぽいキャベツのスープでした。火を通していない蒸しパンが出されたときがあり、口の中にくっきました。インターコムを通して看守に蒸しパンが食べられないと言ったら「留置所は自宅ではない。どこにいると思っているんだ？家では選べるが、ここでは与えられたものを食べる。満腹だから文句を言うんだろう」という答えでした。

この苦情を出したあと、1週間は蒸しパンと水のみでスープはなし、という処罰が与えられました。その後、我々がウイグル語を話すことを責め、1ヶ月間、水と蒸しパンだけの処罰が与えられました。別の監房の人々も同様の理由で処罰していました。「ウイグル語は禁じられている。中国語のみを話せ」と言い、中国語を話せば食事がもらえるという状態でした。

何よりも耐えられない状況は、定期的に身体を洗うことが許されなかったことです。1週間に1度だけシャワーが許されましたが、全員40分以内で終えなければなりません。石鹸は一つ与

えられたただけでした。2人ずつ一緒にシャワーを浴びました。これほど短い時間で石鹸も限られていてきちんと洗うことは不可能でした。不衛生のため身体が腫れました。

全ての留置所で、監視カメラの届かない場所はありません。互いに話すことは許されませんでした。1日のほとんどは、何もない壁を眺めていました。モニターから政治・中国語の指導を受ける時だけ、紙とペンを渡されました。中国語で書き、会話することだけが許されました。

錠剤を飲まされました。混乱し、集中力を失い、気持ちが抑圧され、親や子供のことすら考えられなくなりました。さらに生理も止まりました。

多くの女性が深刻な合併症に罹りました。摂食不足から失神し、痙攣を起こし、精神衰弱に陥りました。若い女性たちが、叫び、頭を壁に打ち、排便を壁になすりつけ、命令を拒否するのを目撃しました。これらの女性は連れ出され2度と戻ってきませんでした。

2018年9月に釈放されました。そして、2017年5月に疾走してすぐに、カザフスタンの家族が私の釈放のために陳情を始めたことを知りました。毎日、彼らはカザフスタンと中国当局に書簡を出しました。最終的にカザフスタン政府が中国政府に影響を与え、私が釈放されたのです。

釈放される日、監房から呼び出され、頭巾を被せられました。腕を伸ばすように命じられ、縛られました。刑務所の病院で身体検査を受けました。警官が医師に相談しているようでした。医師は、体重がかなり減り、衰弱しているのでカザフスタンへの飛行機に乗せることはできないと医師は言っていました。病院で2日間ビタミンと点滴を与えられ、二日後に担当警官が来て「無罪放免です」と言って縛られていた私の手を解きました。

新疆ウイグル自治区政府のショラット・ザキール (Shohrat Zakir) 議長 は国営の新華社に、収容所に留置された人々は「国家の共通語を学び、法的知識と職業技能を身につけることへと進んでいく」と語りました。

拘留された15ヶ月間、収容所から収容所へと移され、部屋を転々としましたが、誰も何も学んでいませんでした。

身体検査

第三刑務所に到着した夜、身体検査のために裸にされました。血液の尿を採られてから監房に入れられました。1週間もたたないうちに、黒の頭巾を被せられ、他の囚人と一緒にどこかわからない場所に連れて行かれました。廊下には医療器具がありました。検査され採血され、超音波検査も受けました。一週間に一度、裸にされて検査されました。一度、第3刑務所で失神し、刑務所の病院に連れて行かれました。そこには多くの囚人がおり、ほぼ毎日身体検査を受けました。第二刑務所には大きな診療所があり、定期的に採血され、超音波検査を受けました。10日に一回、注射されました。2018年8月27日の釈放されることになっていた日には、大きな刑務所病院に、体の状況を調べるために連れて行かれました。